



指導には実際に演技をして手本をみせる



鏡を前に基本動作を確認するメンバー

心を震わす ひろのしょうりゅうだい 広野昇龍太鼓

第3位に輝いた。大会参加のきっかけを「チーム結成から15年が経過して、節目を迎えました。新たな目標として応募に踏みきました。」と話すのはメンバーの西本さん。事前のビデオ審査を経て本大会の出場が決定した。

大会に向けて練習には熱が入り、心地よい緊張感を楽しみながらメンバーが一体となり、充実したものとなった。

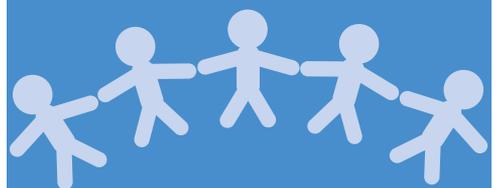
大会は持ち時間10分以内でオリジナル曲の「祭宴」と「燦燦」の2曲を披露した。広野昇龍太鼓の特徴である太鼓のもつ荒々しさや動きの激しさ、躍動感、日本舞踊のもつしなやかさ、きめこまやかさが最大限に表現された。第3位に加え、メンバーを喜ばせるプレゼントがもう1つあった。エンターテイメント賞の受賞だ。この賞は、会場審査員の得点の最も多いチームに贈られるもので、演奏するものとしてお客さんから評価を受けることは非常にうれしいことだ。

大会が終了してからも結果に起こることなく練習に取り組んでいる。太鼓を楽しく打つという原点を忘れず、太鼓の輪を広げるために全力を注いでいる。

みんなもぜひ、太鼓の音色、リズムを聴きに築地ヶ丘公園に足を運んでみてほしい。

広野ライフスタイル

町民いきいき生活取材



広野町は多くの笑顔であふれている。

それぞれ、趣味やいきがいを持って人。笑顔でいきいきと生活を送る町民が、町に明るさをもたらしている。そんな人たちを紹介。

また、これをきっかけに自分の趣味やいきがいについて考えてほしい。



広野昇龍太鼓メンバー

ドンドン、ドンドン、ドンドン。日が暮れる時間も早くなり、あたりは真っ暗になった築地ヶ丘体育館の明かりとともにこぼれる太鼓のリズム。入口の扉を開けると、今にもガラスをつき破りそうなくらい、太鼓の鼓動が心と身体に響いてくる。圧倒される。

このリズムを奏でるのは、今年で結成から15周年を迎える「広野昇龍太鼓」。サマーフェスティバルやイベント参加、自主公演の開催など数多くの舞台を踏んできた。

その広野昇龍太鼓が岩手県北上市で9月6日に開催された第9回全日本創作太鼓フェスティバルで